

HALion Symphonic Orchestra 1.3.0.450

改善点：

- **Mac OS X：Intel Mac対応**

インストール方法（2通りございます）

方法1（推奨）

HALion Symphonic Orchestra をオリジナル・インストールDVD-ROMを使用してインストール後に、ダウンロードした HALion Symphonic Orchestra 1.3.0.450 インストーラを使って上書きインストールを行う。

方法2

ダウンロードした HALion Symphonic Orchestra 1.3.0.450 インストーラを実行後に、手動でコンテンツ・ファイルをコピーする

（“BROWSER” ページ → HALion コンテンツ・フォルダ → コンテンツを選択する）

- **Windows：Vista 32bit対応**

インストール方法

- 本インストーラを使ってHALion Symphonic Orchestra 1.3.0.450をインストールを行う。
（ Windows XPおよび、Vista 32bit に対応するSyncrosoft License Control Center ver.5.2.10.2 が同時にインストールされます。）
- HALion Symphonic Orchestra 1.x のオリジナル・インストールDVD-ROMからコンテンツをハードディスクにコピーする。
- コンテンツ・ファイルを手動で選択してご使用ください。
（“BROWSER” ページ → HALion コンテンツ・フォルダ → コンテンツを選択する）
- コンテキスト（グローバル）メニューの“Archive”メニューに、“Save as Default Bank” 機能を追加。
現在使用中のバンクをデフォルト・バンクとして保存します。次回起動時にこのバンクを自動的にロードします。
- ディスクストリーミング LEDにピーク機能が搭載されました。ストリーミング・エラーが発生するとクリックするまで、LEDの周りが赤く点灯した状態になります。
- スタンドアローン PC：HALSymphOrch.dll (.exe) と同階層に“ignorereportfilter” というファイルをコピーすると“emulated Direct Music Ports” を回避することができます。コピーした後は“Preference” にすべてのMIDIポートがリスト表示されます。

“ignorereportfilter” ファイルの作成方法：

ワードパッドを使って新規ファイルを作成し、保存時に ignorereportfilter という名前をつけてください。最後に作成したファイルから拡張子を削除することでOkBの“ignorereportfilter” というファイルが出来上がります。

“ignorereportfilter” は、HALion Symphonic Orchestraのアップデートと同じWEBページからダウンロードすることもできます。

- ・ スタンドアローン：Enable Hybrid ReWire Mode機能搭載。ReWireスレーブで動作時にMIDI情報をReWireホストからではなく、任意のMIDIポートから受信することができます。HALion Symphonic Orchestra のオーディオ出力はReWireを経由してストリームされます。
シーケンサー出力とHALion（と“MIDI Yoke NT”のようなバーチャルMIDIループバック・ドライバを使用）のMIDIチェーンの中でMIDIを扱うアプリケーションを接続する場合に便利な機能です。

修正点：

- ・ VSTインストゥルメント スロットでインストゥルメントの選択画面を表示させると時々クラッシュしてしまっていた問題を改善。
- ・ オーバーラップ・モードが正しく動作するように改善。
- ・ スタンドアローン：Preference内で設定するテンポと拍子情報が記録されるようになりました。
- ・ スタンドアローン PC：Preferenceでオーディオデバイス、ハードウェアのMIDIデバイスを変更した際に起こっていたクラッシュを改善。

Tips：

- ・ HALion Symphonic OrchestraをSteinberg Key（またはSyncrosoft License Control Center）を使用するその他の製品と一緒にインストール、およびご使用される場合は、インストール後に最新のSyncrosoft License Control Center をインストールしてください。
- ・ HALion Symphonic Playerの出力チャンネル数はご使用になるホストアプリケーション、またはプラグイン・インターフェイスによって変わります。
- ・ HALion Symphonic Player をWindows上でスタンドアローンとしてご使用されている場合、オーディオデバイスのバッファ設定を変更するとMIDIの受信ができなくなります。このような場合は、一度HALion Symphonic Playerを終了して、再度起動しなおしてください。
- ・ 例えばMIDIピッチデータを送信するコントロール・キーボードをご使用されている場合、HALion Symphonic PlayerはMIDIコントローラーからのデータ受信を正常に行うことができないため、ノイズを発生させることがあります。
- ・ BROWSER メニュー：新機能“Show Categories”を有効にして、新しいHSBファイルをロケートすると、結果がすぐにBROWSERに反映されません。この場合は、コンテキスト・メニューからrefreshを選択してください。
- ・ マルチコア/マルチCPU搭載コンピュータを使用している場合はHyperthreadingを有効にしているとパフォーマンスが低下する場合がございますので、無効にしてください。Hyperthreadingは現実的にはシングルCPU（シングルコア）環境でのみ効果があるかも知れません。
- ・ Steinberg KeyをWindows Vistaでご利用される場合、USBハブを使用するとLicense Control Centerが起動時にフリーズすることがあります。この場合は、ハブから一旦Steinberg Keyを抜いて、License Control Centerを起動後にSteinberg Keyをハブに接続してください。

Cubase

- ・ Cubaseでノートがなり続ける現象がある時は、「停止時にリセット」オプションを有効にしてください。
- ・ Cubase SX、Cubase SL、NuendoはHALion Symphonic Playerのプログラムリスト、またはGLOBALページからプログラムの割り当てを受信しないので、HALion Symphonic Player側で割り当て前にホスト側のインスペクターでプログラム変更を行なってください。
- ・ “Full Quality During Export Mixdown” は、Cubase 4.0.xでは機能しません。エクスポート前にOPTION ページでクオリティを設定して、リアルタイム・エクスポートを行ってください。

DXi バージョン

- ・ DXi：SONARの「Bounce to Tracks」機能を使用している時に音が急に途切れたりMIDI情報の欠落が確認できる時は「FastBounce」オプションを無効にしてください。また、“Play effect tails after stop”機能（Options > Audio > Advanced > ）を有効にしてください。有効にしないとドロップアウトや音切れが発生する場合があります。

また、HALion Symphonic Orchestraからオーディオトラックへすべてのオーディオアウトプットを接続してください。すべてのオーディオがミックスされた1トラックだけ必要な場合は、HALion Symphonic Playerの16ある各スロットの出力設定を、最初のアウト“RPG（デフォルト）”から最初のアウトプットに変更

AU / Logic

- HALion Symphonic Orchestra は、Logic 5.5.1とはご使用頂くことができません。Logic 7.xをご使用ください。
- HALion Symphonic PlayerのAUバージョンをLogic内でステレオ・アウトプット・モードで使用する場合、HALion Symphonic Playerの16ある各スロットの出力設定を“PRG（デフォルト）” から手動で、最初のカペアに設定して頂く必要があります。